

テトスへの手紙

テトスへの手紙は、クレタで務める委任を受けた人に、複数の長老を任命し、有害な教えに対抗し、健全な教えと善い行いで特徴づけられる共同体を育てるよう指示します。



解釈にもとづく再構成。集まりと島の風景は再構成です。この絵は執筆地を補ったり、使徒言行録後に提案される旅程を描いたりしてはいません。

年代・確度：推定される

紀元62～64年頃

ニコポリスはマケドニアではなくエピロスにあります。テトスへの手紙3章12節は越冬の計画を述べるのであって、実証された執筆地ではありません。ブラウンの、パウロ自身による著作とする要約は、この手紙を紀元65年頃に置きます。

場所・確度：推定される

ここに示す伝統的な使徒言行録後の再構成は、手紙をクレタと、西暦62～64年ごろにニコポリスで越冬する計画に結びますが、パウロ自身の場所は不確かです。ニコポリスはマケドニアではなくエピロスにあります。テトスへの手紙3章12節は越冬の計画を述べるのであって、実証された執筆地ではありません。ブラウンの、パウロ自身による著作とする要約は、この手紙を紀元65年頃に置きます。

前後の出来事

- ① 紀元60～62年頃 フィレモンへの手紙は、書き手がオネシモをフィレモンのもとへ送り返そうとしていると述べる。コロサイの信徒への手紙との共通する人名は両書の関連を示唆するが、同じ発送、完了した旅程、監禁都市を確定しない。
・推定される
- ② 紀元60～62年頃 エフェソの信徒への手紙は、キリストとの結びつきと、ユダヤ人と異邦人の一致を示す。パウロによる直接の著作、宛先、監禁場所はいずれも議論されている。
・推定される
- ③ 紀元60～62年頃 フィリビの信徒への手紙は、投獄が福音の前進につながったことを描き、キリストをたたえる賛歌を含む。監禁都市は議論されている。
・推定される
- ④ 紀元62～64年頃 テモテへの手紙一とテトスへの手紙をパウロの直接の書簡と読む伝統的な見方では、両書の状況は使徒言行録後の働きーテモテがエフェソに、テトスがクレタ島にあり、ニコポリスで越冬する計画ーを示唆する。使徒言行録は釈放も旅程も語らず、ニコポリスは執筆地として示されていない。
・推定される
- ⑤ 紀元62～64年頃 テモテへの手紙一はテモテをエフェソに置くが、パウロによる直接の著作と、提案される使徒言行録後の旅程は議論されている。
・推定される
- ⑥ 紀元62～64年頃 テトスへの手紙はテトスをクレタ島に置き、長老を任命するよう求めるが、パウロによる直接の著作と、提案される使徒言行録後の旅程は議論されている。
・推定される
- ⑦ 紀元64～67年頃 テモテへの手紙二は、ローマと結び付けられ、犯罪者のようにつながれた囚われの語り手を描く。パウロによる直接の著作と、使徒言行録後の最後の投獄という再構成は議論されている。
・推定される

本文から確かめられること

本文で確かめられる

テトスへの手紙は、クレタで務める委任を受けた人に、複数の長老を任命し、有害な教えに対抗し、健全な教えと善い行いで特徴づけられる共同体を育てるよう指示します。

直接の受取人はテトスであり、その働きはクレタの諸教会と地域の指導者に関わります。

主な再構成

ここに示す伝統的な使徒言行録後の再構成は、手紙をクレタと、西暦62～64年ごろにニコポリスで越冬する計画に結びますが、パウロ自身の場所とは不確かです。

ニコポリスはマケドニアではなくエピロスにあります。テトスへの手紙3章12節は越冬の計画を述べるのであって、実証された執筆地ではありません。ブラウンの、パウロ自身による著作とする要約は、この手紙を紀元65年頃に置きます。

考える別の読み方

批判的研究の多くは、語彙、教会の秩序、旅程の難しさを理由に、テトスへの手紙をパウロ伝承の中で後に書かれた作品と読みます。

10分で紹介するための流れ

1. テトスへの手紙は、クレタで務める委任を受けた人に、複数の長老を任命し、有害な教えに対抗し、健全な教えと善い行いで特徴づけられる共同体を育てるよう指示します。
2. 伝統的には、テトスへの手紙は拘禁書簡群の後、テモテへの手紙二に結びつけられる最後のローマ再構成の前の、使徒言行録後の牧会的状況に属します。
3. ここに示す伝統的な使徒言行録後の再構成は、手紙をクレタと、西暦62～64年ごろにニコポリスで越冬する計画に結びますが、パウロ自身の場所とは不確かです。
4. 批判的研究の多くは、語彙、教会の秩序、旅程の難しさを理由に、テトスへの手紙をパウロ伝承の中で後に書かれた作品と読みます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第29章「教会書簡：テトスへの手紙」：「メッセージの全体的分析」
この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」
この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/titus>

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。